

## 情報数学 III 第 2 回小テストレポート課題についてのコメント

**1** 問題は「与えられた 2 変数  $t, s$  に関する 3 つの方程式の連立方程式の解が存在するか」を調べることである。たいていの場合、2 つの方程式から  $t, s$  が求めるが、それが残りの一つの方程式を満たすかが問題である。

(1) のは解が存在せず、(2) は解が存在する ( $t = -1, s = 0$ )。

**2**

(1) 与えられた 3 点  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  に対し、 $(\vec{a}-\vec{b}) \times (\vec{a}-\vec{c}), (\vec{b}-\vec{a}) \times (\vec{b}-\vec{c}), (\vec{c}-\vec{a}) \times (\vec{c}-\vec{b})$  はいずれも、この 3 点を通る平面の法線ベクトルを与える (ちなみに、これらが零ベクトルになるのは、3 点が一直線上に並ぶときである。この場合、3 点を通る平面は一つに決まらない)。

(2) 点  $\vec{a}$  を通り、法線ベクトルが  $\vec{n}$  の平面上の点を  $\vec{p} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$  とおいて、平面の

方程式  $\vec{n} \cdot (\vec{p} - \vec{a}) = 0$  を展開すると、 $x, y, z$  の係数が法線ベクトルの成分に等しいことがわかる。したがって、方程式  $\alpha x + \beta y + \gamma z = \delta$  が表す平面の法線ベクトルは

$\vec{n} = \begin{pmatrix} \alpha \\ \beta \\ \gamma \end{pmatrix}$  (の定数倍) に等しい。

(別解) 方程式  $\alpha x + \beta y + \gamma z = \delta$  において  $y = t, z = s$  とおくと、

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\frac{\beta}{\alpha}t - \frac{\gamma}{\alpha}s + \frac{\delta}{\alpha} \\ t \\ s \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{\delta}{\alpha} \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} -\frac{\beta}{\alpha} \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + s \begin{pmatrix} -\frac{\gamma}{\alpha} \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

となり、これは平面  $\pi$  の媒介変数表示を与える。法線ベクトルは

$$\begin{pmatrix} -\frac{\beta}{\alpha} \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} -\frac{\gamma}{\alpha} \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ \frac{\beta}{\alpha} \\ \frac{\gamma}{\alpha} \end{pmatrix}.$$

これを  $\alpha$  倍すれば、上のベクトル  $\vec{n}$  に等しいことがわかる (以上の議論は  $\alpha \neq 0$  の場合)。

**3**  $x^2 + y^2 + z^2$  に

$$x = r \cos t \cos s, \quad y = r \sin t \cos s, \quad z = r \sin s \quad (*)$$

を代入して  $r^2$  に等しいことを確かめればよい。